

助成年度：平成 10 年度

[所属] 東海学園女子短期大学
[役職] 教授
[氏名] 杉山 幸丸 (他計 4 名)

[課題]

タイワンザル侵入の現状把握およびニホンザルとの混血リスク の評価と対策

[内容]

和歌山県有田川北部地域に生息する移入種であるタイワンザルと在来種であるニホンザルとの雑種化の実態を調べ、それに対する対策を立てるための基礎資料を得た。現地生態調査では、聞き取り調査と区画法調査をおこない、群れの分布が北側、東側、南側の三方を幹線道路に囲まれる範囲に限定されていること、少なくとも 3 群が生息していること、群れの他にオスグループらしき集団やハナレザル（単独個体）もいること、群れが分派する傾向があることなどを確認した。群れの最大カウント数は、それぞれ 82 頭、69 頭、17 頭であり、この地域内には 170 頭+a の個体が生息していると推定された。ラジオ・テレメトリー法による方探調査の結果からは、2 群の行動域面積は 2.9km² と 2.4km² と推定された。次の群れの分裂が起きると、農作物への被害の拡大、生活環境被害の発生、ニホンザル個体群への接近による混血の危険性の増大などの深刻な事態が予想されるため、急速な対策が望まれる結果となった。遺伝学的調査では、有田川南部地域のニホンザル生息地及び有田川北部地域のタイワンザル放逐地からの資料を分析した。血液蛋白質とミトコンドリア DNA の分析により、有田川南部の日高郡中津村に出現した 1 頭のオトナオスでは、ニホンザルが父方、タイワンザルが母方の混血個体であることが判明した。一方、タイワンザル生息地で捕獲された個体から採取された血液蛋白質の分析によると、この地域に生息するサルではかなり混血状態が進行しており、戻し交配や雑種間交配で生まれた様々な程度の混血個体がいることが確認された。また、母性遺伝するミトコンドリア DNA ではニホンザルタイプが見つからなかったことから、タイワンザル母群の混血の原因は外部から侵入したニホンザルのオスと群れメスとの交雑と推測された。